



「水利が拓く 実りの明日へ」
キャンペーン



刈谷田川土地改良区にある
記念碑には、事業の大きさが
刻まれている。

「この施設は大切なんだよ」
夏の昼ざかり
刈谷田川右岸排水機場を望む
橋の上で老人と子どもが話していた。
川には魚や亀が浮いていた。
暑さにまいったようだ。



木原四郎の 水利を歩く

新潟市在住のイラストレーター
木原四郎さんが1年をとおして、
新潟農業を支える水の流れを訪ね歩き、
風景や人とのふれあいを描きました。

国府川左岸土地改良区には
自然環境を生かした
水利事業が...



はさ木並木を通ると
稲わらの香りが
郷愁を誘う。

白山のふもとの田園には
首を垂れた稲穂が
ゆれていた。



小倉ダムに向かう途中、
思いもかけぬ野生アサギの
出迎えに驚く。

感想書いてプレゼント!

「朱鷺と暮らす郷米」 プレゼント!

※写真はイメージです。

本キャンペーンへのご意見、ご感想をお寄せください。
抽選で5名に「朱鷺と暮らす郷米」(2合)をプレゼントします。

応募
方法

●はがき/〒950-8535 新潟市中央区万代3-1-1
●ファクス/025-385-7476 ●Eメール/minori@niigata-nippo.co.jp
いずれも「水利が拓く実りの明日へ」キャンペーン事務局(新潟日報社広告部)へ。

応募
締切

2020年 3月5日(木) 必着

※当選者の発表は発送をもってかえ
させていただきます。個人情報保護はプ
レゼントの発送のみに使用します。

PROFILE

1946年、佐賀県佐賀市出身。
「旅するイラストレーター」として新
潟県内を歩き、風景や人物を描き
続ける。独特の柔らかいタッチのイ
ラストと心温まる文章で人とモノと
の出会いを紹介し、人気を集める。
17年にわたり、NHK総合「金よう
夜 きらっと新潟」に出演した。



イラストレーター
きはら しろう
木原 四郎さん

時には荒れ狂い
すべてを押し流し、
時には大地にしみ込み
命を育む...。
水の太いなる力を
思い知る。
やはり、自然はすごいよ。

木原四郎さんが
1年間で巡った
農業水利事業



佐渡市内の
土地改良事業

阿賀野川左岸地区の
土地改良事業

刈谷田川右岸地区の
土地改良事業

お問
い合
わせ

「水利が拓く 実りの明日へ」キャンペーン事務局
(新潟日報社広告部内)

新潟市中央区万代3-1-1 ●TEL 025-385-7474 (土日祝日を除く/10:00~17:00) ●ファクス 025-385-7476 ●Eメール minori@niigata-nippo.co.jp
◎主催/農林水産省北陸農政局 ◎共催/新潟日報社 ◎後援/新潟県、新潟県土地改良事業団体連合会、JAグループ新潟 | 企画・制作/新潟日報社広告局 |

過去の紙面もご覧いただけます/

キャンペーン 特設サイト

水利が拓く 実りの明日へ 検索





「水が拓く実りの明日へ」
キャンペーン

2019年度総括シンポジウム&ミニマルシェ 農業を支える水利の力



パネルディスカッション

未来へつなぐ農業と土地改良 ～生産・土地改良の現場から～

- 出演者…………… 岩坂 省三さん（栄北部株式会社 代表取締役社長）
高塚 俊郎さん（タカツカ農園代表）
池田 広之さん（JA佐渡水稲部会長）
佐藤 毅さん（北陸農政局新潟県拠点・総括農政推進官）
●コーディネーター…………… 伊藤 忠雄さん（新潟大学名誉教授）



《講師》尾畑酒造「真野鶴」五代目蔵元
尾畑 留美子さん

基調講演

佐渡から世界へ “旅する地酒、は生産地の 魅力を伝える語り部

プロフィール

1965年、佐渡市出身。慶応大学法学部卒。
日本ヘラルド映画(当時)の宣伝プロデューサーを経て95
年、生家の蔵を継ぐ。廃校となった小学校を仕込み蔵として
再生させる「学校蔵プロジェクト」に取り組むなど、島の活性
化、島の魅力発信に力を入れている。尾畑酒造専務取締役。

新潟は酒造りの
三大要素である「コ
メ」「水」「人」に恵まれています。
パラエティに富んだ五つ
の蔵元がある佐渡でいえば江
戸時代、金銀山で働く人々の食
料を賄ったため、コメが多く作ら
れました。島内の軟水は柔らかい
な味わいの酒を生み、粘り強い
県民性は酒造りに適していま
す。トキが舞う豊かな自然を加
えた「四宝和醸（しほうわじょう）
」が当社のモットーです。
例えば、環境に配慮して栽
培されたコメを使い、佐渡な
らではの酒造りに取り組んで
います。契約農家、相田忠明
さんの「カキ殻農法」で育て

省力化で活動の場拡大
タカツカ農園代表
高塚 俊郎さん

コメと柿 食品加工が経営の
3本柱です。最も広い田んぼは
1枚約3畝弱、給排水口が五つ
あり、調整は1カ所で済みます。
漏水がないので見回りも極端
に省力化でき、地下水位も調節
できます。就農以来、面積は3
倍以上になりましたが管理に
かける時間は減っています。そ
の時間を使い、NPO法人とし
て子ども向けの農業体験や食
育を行うほか、地域の祭りにも
参加しています。



排水機場は地域の命綱
栄北部株式会社 代表取締役社長
岩坂 省三さん

旧栄村（現三条市）で19
82年に設備共同化のため
稲作組合を立ち上げ、その後
大豆転作を合理化するため
株式会社を設立しました。コ
メと大豆を順番で作付けす
るブロックローテーション
による大規模団地化を進め
ています。これは土地改良事
業では場条件がよくなった
おかげです。
私が小学生の頃は水害が
多く、収穫がほとんどない年
もありました。しかし刈谷田
川右岸排水機場が稼働した
ことで排水環境は大きく改
善されました。2004年の
7・13水害でも農作物の被
害を免れるなど、排水機場は
地域の命綱でもあります。



認証米栽培 トキと共生
JA佐渡水稲部会長
池田 広之さん

私が農業の後継者となった
当時、「番水」という制度があ
りました。ベテランの農家が
田んぼを回り一定時間 配水
する仕組みです。小倉ダムが
完成し、各地域で給水が始
まったことでこの制度はなくな
りました。



古里の実り次世代へ
十分な議論が不可欠
コーディネーター
新潟大学名誉教授
伊藤 忠雄さん

土地改良事業によって本
県農業は構造改革が図られ
経営の大型化が進んでいま
す。組織が連携しまとまって
農業に取り組む岩坂さんの
ような形態は、今後の農業に
とって重要な方向性を示し
ています。



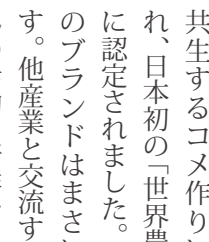
園芸の振興へ基盤整備
北陸農政局新潟県拠点・
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算
出額（2018年）は、山形県
に抜かれ、13位と順位を下げ
ました。園芸の振興が本県の
課題であり、水田でも園芸作
物を栽培できるよう、排水改
善などに取り組むことが土地
改良事業の今後の役割です。



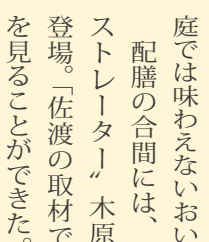
省力化で活動の場拡大
タカツカ農園代表
高塚 俊郎さん

コメに偏る新潟県の農業算
出額（2018年）は、山形県
に抜かれ、13位と順位を下げ
ました。園芸の振興が本県の
課題であり、水田でも園芸作
物を栽培できるよう、排水改
善などに取り組むことが土地
改良事業の今後の役割です。



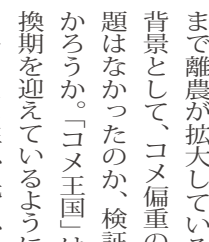
園芸の振興へ基盤整備
北陸農政局新潟県拠点・
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算
出額（2018年）は、山形県
に抜かれ、13位と順位を下げ
ました。園芸の振興が本県の
課題であり、水田でも園芸作
物を栽培できるよう、排水改
善などに取り組むことが土地
改良事業の今後の役割です。



園芸の振興へ基盤整備
北陸農政局新潟県拠点・
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算
出額（2018年）は、山形県
に抜かれ、13位と順位を下げ
ました。園芸の振興が本県の
課題であり、水田でも園芸作
物を栽培できるよう、排水改
善などに取り組むことが土地
改良事業の今後の役割です。



園芸の振興へ基盤整備
北陸農政局新潟県拠点・
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算
出額（2018年）は、山形県
に抜かれ、13位と順位を下げ
ました。園芸の振興が本県の
課題であり、水田でも園芸作
物を栽培できるよう、排水改
善などに取り組むことが土地
改良事業の今後の役割です。



園芸の振興へ基盤整備
北陸農政局新潟県拠点・
総括農政推進官
佐藤 毅さん

コメに偏る新潟県の農業算
出額（2018年）は、山形県
に抜かれ、13位と順位を下げ
ました。園芸の振興が本県の
課題であり、水田でも園芸作
物を栽培できるよう、排水改
善などに取り組むことが土地
改良事業の今後の役割です。

豊富な自然生かし
こだわりの酒造り
新潟は酒造りの
三大要素である「コ
メ」「水」「人」に恵まれています。
パラエティに富んだ五つ
の蔵元がある佐渡でいえば江
戸時代、金銀山で働く人々の食
料を賄ったため、コメが多く作ら
れました。島内の軟水は柔らかい
な味わいの酒を生み、粘り強い
県民性は酒造りに適していま
す。トキが舞う豊かな自然を加
えた「四宝和醸（しほうわじょう）
」が当社のモットーです。
例えば、環境に配慮して栽
培されたコメを使い、佐渡な
らではの酒造りに取り組んで
います。契約農家、相田忠明
さんの「カキ殻農法」で育て



新潟は酒造りの
三大要素である「コ
メ」「水」「人」に恵まれています。
パラエティに富んだ五つ
の蔵元がある佐渡でいえば江
戸時代、金銀山で働く人々の食
料を賄ったため、コメが多く作ら
れました。島内の軟水は柔らかい
な味わいの酒を生み、粘り強い
県民性は酒造りに適していま
す。トキが舞う豊かな自然を加
えた「四宝和醸（しほうわじょう）
」が当社のモットーです。
例えば、環境に配慮して栽
培されたコメを使い、佐渡な
らではの酒造りに取り組んで
います。契約農家、相田忠明
さんの「カキ殻農法」で育て

参加者の声

●不便とは思っていな
かった佐渡でこんなにもた
くさんの挑戦がされている
とは驚きました。尾畑さん
の話に感動（40代女性）●若
い人たちが農業に目を向け、
農業だけで生活が成り立つ
ような取り組みの強化が必要
です。若い人に夢を与えら
れるようPRしてください（50代女性）●農家だけで
なく消費者も一緒に農業を
支えなくてはなりません。
土地改良の技術という視点
がなかったで、勉強にな
りました（50代女性）●初め
て参加しましたが大変勉強
になりました。今後もぜひ
続けてください（70代男性）

小さな市場 ミニマルシェ

日報ホール入りのホワイエでは
ミニマルシェが開催されました。紙面
に登場した生産者らが農産物や加工
品を販売し、「水利の恵み」を求める来
場者でにぎわいました。
タカツカ農園（新潟市秋葉区）の
ブースには、ジャムや干し柿、ドレッシ
ングなどの加工品がずらり。JA佐渡
（佐渡市）はリンゴやコメ、ドライフ
ルーツなどを取りそろえました。

吉田華さん（三条市）がハウス栽培
するのはわさび菜。来場者に「サラダ
やおひたしにして食べて」などとアド
バイスしていました。

水利の恵みを味わって
県内3地区の農産物
おしゃれにアレンジ
《提供》
ケタリングチームDAIDOCO
本年度の特集紙面で紹介され
た地域の農産物を使った創作料
理が振る舞われました。ケータ
リングチームDAIDOCOに
よっておしゃれにアレンジされ
た逸品を来場者が口に運ぶと、
客席には笑顔が広がりました。
大口レンコン（刈谷田川右岸地
区）はエビのだしを利かせて素揚
げに、サトイモ（阿賀野川左岸地区）
はつぶしてスパイス炒めになり、
リンゴジュース（佐渡地区）はジュ
レにしてオリブオイルと蜂蜜の
ムースとあえました。いずれも家
庭では味わえないおいしさです。
配膳の合間には、「旅するイラ
ストレター」木原四郎さんが
登場。「佐渡の取材ではトキの姿
を見ることができた。夢のような
体験であり、この奇跡的な出会い
を描いたと独特のユーモラスな
口調で語り、会場を沸かせました。

コメ偏重から転換を
新たな胎動に期待感
新潟大学名誉教授 伊藤 忠雄さん

「コメ王国新潟」は、農業水利大
国でもある。とりわけ、用排水機場
の設置数は300カ所、新潟県
が全国一となっている。その数の
分だけ、新潟では水との苦闘が多
かったことを物語っている。
本年度の「水利が拓く実りの明日
」キャンペーンでは、大規模な三つ
の用排水施設を巡った。施設の造成
が受益地域に及ぼした効果は大きく、
それらの先進的な取り組みは総括シ
ンポジウムで生産者から紹介された。
しかしながら、その一方で、県内
各地では米価の長期低迷や高齢化、後
継ぎ不在などの事情から大規模層に
まで離農が拡大しているという。その
背景として、コメ偏重の農業構造に問
題はなかったか、検証が必要ではな
からうか、「コメ王国」は今、大きな転
換期を迎えているように思われる。

お問合わせ
「水利が拓く実りの明日へ」キャンペーン事務局
（新潟日報社広告部内）
新潟市中央区万代3-1-1 ●TEL 025-385-7474（土日祝日を除く／10:00～17:00） ●ファクス 025-385-7476 ●Eメール minori@niigata-nippo.co.jp
◎主催／農林水産省北陸農政局 ◎共催／新潟日報社 ◎後援／新潟県、新潟県土地改良事業団体連合会、JAグループ新潟 | 企画・制作／新潟日報社広告局 |

プロフィール
1944年、新潟市生まれ。67
年、新潟大学農学部卒。専門は農業
経営学。同大教授、副学長などを経
て2010年に退職。15年3月まで放
送大学新潟学習センター所長。12
年から5年間、県内の先進的農業経
営者を講師に招き、実践的経営講
義を講義する「新潟農業経営塾」を主
宰。現在、新潟市農業活性化研究セ
ンター名誉所長として新潟農業の
課題などを問題提起している。